

保全協会は自然を守るため多くの団体と連携・協働している。  
連携団体のメンバーから協会の活性化のためのメッセージをいただいた。

## 本山寺周辺の森林を守ろう

文 田口 圭介 (本山寺自然環境保全地域を考える協議会・副会長、TKK自然観察会・代表)

### 大阪府自然環境保全地域

大阪に残された貴重な自然を大阪府自然環境条例に基づいて指定し、守ろうとするもので、府下には5箇所の自然環境保全地域が指定されています。本山寺はそのうちの一つで、1978年に指定されました。場所は高槻市北部にある本山寺を中心とした周辺地域で、標高500m前後の森林地14.32ha「樹齢100年以上と思われる高木のモミ、ツガとアカガシなどの優れた天然林を有している地域」となっています。

### 本山寺自然環境保全地域を考える協議会

ところが保全地域に指定されたまま何の保護策もなく40年以上経ち、森の中にも色々な異変が生じてきました。ニホンジカ(以下、シカという)が増加し、指定地域内にある本山寺境内の植栽にまず被害が出て、森の中に被害は進行していきました。それに立ち向かうグループとして、2010年に「本山寺自然環境保全地域を考える協議会」(以下、協議会という)を結成しました。これまでも里山や野生動物保護に経験の多い大阪自然環境保全協会内に事務局を置いています。具体的な活動内容は地域の植生やシカ生息状況の調査、植生保護柵設置・保全、報告集会・勉強会・観察会実施、生態系への被害調査、箱罠の保全ですが、最終的には、保全地域の野生動物の保護管理のあり方や植生回復の方策を検討し、実行することです。そのためにも、他の森林保全団体や関係各機関(京都大阪森林管理事務所、大阪府、高槻市、大阪府猟友会高槻支部)と連携しています。

### 自然環境保全地域の現状

協議会では市民の皆さんに「本山寺周辺の森林」を知って頂くための報告集会や勉強会をこれまで実施していますが、その中からも森の現

状の一端を知ることができます。例えば、幸田良介氏(大阪府立環境農林水産総合研究所)によれば、高槻市に生息するシカの平均密度は12.3頭/km<sup>2</sup>、全数650頭とかなり高くなっています。また、池田裕計氏(日本自然保護協会 自然観察指導員)によれば、哺乳類ではシカ、イノシシが圧倒的に多く、さらにリス、テン、キツネなど多くの種類も確認されています。松井 淳氏(奈良教育大学)の報告では、この30年で成木の落葉広葉樹とツガが減少し、常緑広葉樹が増加しています。また、リョウブやヤブツバキの剥皮も目立っていることから、シカの増加・採食も一因だろうと推定されています。また、協議会が高柳 敦氏(京都大学)指導の下で設置している防鹿柵内ではアオキ、コアジサイの花が見られるなど、目に見える効果も確認しています。

以上のように、本山寺の森ではシカが増加し、その採食圧で植物が急速に消えつつあり、草花だけでなく木の芽生えもなくなり、裸地の拡大・表土の流出などで、森林そのものの更新が危ぶまれているのが現状と言えます。

### 今後に向けて

問題はかなり大きく、防鹿柵で保全地域を取り囲もうとの夢はありますが、金力・筋力いづれも不足気味で、森より先にメンバーがつぶれないよう、元気な若い人がもっともっと本山寺山に来て欲しいと切に思っています。



勉強会・本山寺周辺の森林見学